

品川  
芸宿町  
民御  
籠小鳥



〒297-0024 茂原市八千代 2-10  
千葉県教育庁東上総教育事務所  
TEL 0475-23-8125 FAX 0475-25-3143  
E-mail hgskzs24@mz.pref.chiba.lg.jp  
第5号

2014年12月15日(月)発行

## 所長訪問・指導室訪問を振り返って



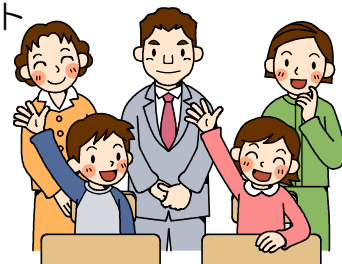
今年度、所長訪問は68校、指導室訪問は67校を行いました。事務所の所員は、授業を参観し、先生方を知り、学校を知り、学校力、授業力を向上させるために本気で学校訪問し、指導・支援をしてきました。

### <所長訪問>

各学校におかれましては、校長先生のリーダーシップのもと全職員が一丸となって子どもたちの夢の実現に向けて、具体的な対策をもって取り組んでいる学校も多々見られます。それが、学校環境や授業等の様子、子どもたちの活動する姿に反映されている学校には、方向性は間違っていないと声を大きくして後押ししてきています。しかし、まだまだ具体的な対策が弱かったり、学校の課題へのアプローチがずれていたりする学校には、今年度の「言うべきことは言う」の方針通り、きちんと指導してきました。その後、説明資料等すぐに改善し、提出してくれた学校も何校もありました。また、私のこだわりとして、授業を参観させていただいた全ての学級のコメント等を伝え、学校や先生方にエールを送ってきたつもりです。

### <指導室訪問>

各学校の学力向上面においては、それに対する先生方の意識が全体的に高まってきているということを感じます。自校で全国学力・学習状況調査や県標準学力検査を分析・考察をし、具体的な手立てを打ち出して、実践している学校が多くみられました。例えば、校内研究をとおした授業力向上への取組や授業改善、また基礎・基本の習得を図るための繰り返し学習や家庭学習の習慣化等、「このような課題があるから、こう手立てを講じて、工夫を凝らしながら子どもたちの学力をアップさせていこう」とするものです。学校独自の特徴的な取組をとおして成果を上げている学校もありました。今後は、実践したことに対する効果や成果・課題を年度途中でも、検証し、さらなる改善を図っていくことが大切です。検証が十分行われ、各学校が課題を把握し、課題解決に向けた手立て・取組が講じられるよう、期待します。



最後になりますが、各学校におかれましては、事務所の訪問を学校力・授業力の向上のよい機会としてとらえて、真摯に対応して頂いていることに、心より感謝申し上げます。今年も後わずかになりましたが、どうか健康にご留意され、「自分なりの夢」を持って新年を迎えられますようご祈念申し上げます。

## 若手教員育成研修会が終了しました



大多喜町立西中学校  
の授業の様子

本年度の若手教員育成研修会が、6月16日から12月4日まで計18回実施され、延べ452名が参加しました。

本事業は、若手教員が授業参観や協議会をとおして、教科等の指導力を向上させることをねらいとし、採用2年目から5年目までは一回以上参加、その他10年目までの教員は希望制として実施しています。ここ数年研修会参加対象者は増えていますが、中には一人で数回参加される方も多くなっています。

授業参観では、目的を持った参観態度が見られるようになり、授業後の話し合いも活発で、中には研修会后、授業や資料について熱心に見聞きしている参加者もいました。参加者のアンケートからは、「自分の課題解決に役立った。」や「学習指導案の書き方がよくわかった。」「資料提示の方法や教具の工夫、発問・板書・机間指導・個に応じた指導等のポイントがよくわかった。」等前向きな感想・意見が多く、すぐに実践に生かせる研修となりました。

本事業をお引き受けいただきました学校及び授業者の皆さん、当日までの準備や授業展開、協議会等ありがとうございました。

# 管内の学校の取り組みを紹介します

## 千教研生活科・総合的な学習教育研究協議会 山武大会 九十九里町立九十九里小学校

11月7日（金）に「ふるさとから学び、未来をひらく子どもの育成」という主題の下、九十九里小学校で生活科と総合的な学習の時間の研究協議会が行われました。九十九里浜や作田川等の自然環境や学校近隣にあるハーブガーデンを活用した学習の発表でした。学習をとおして、探究的な学習のサイクルを学ぶとともに、「ふるさと」への愛着も確実に育っています。

当日は、文部科学省の田村学教科調査官の講演も行われ、これからの生活科・総合的な学習の時間における探究と活用型学力についてのお話をいただきました。内容の濃い話を、写真を交えながらわかりやすくお話し下さり、あっという間の80分でした。



1学年の授業の様子  
ハーブとなかよし  
…秋のハーブ…

## 発達障害理解推進セミナー『燦シャイン』 いすみ市立大原小学校・大原文化センター

11月21日（金）発達障害理解推進事業「燦シャイン」が開催されました。

午前はいすみ市立大原小学校を会場に、全17学級・6教室でユニバーサルデザインの視点に立った授業実践が公開されました。教師のかかわり方（教材提示・評価等）や教材の工夫（操作性・具体性等）、授業の構成（学習形態・場の設定等）を工夫し、児童にとってわかりやすい授業が展開されました。

午後は大原文化センターに会場を移し、研究発表やパネルディスカッション（燦々会議）、講演会が行われました。燦々会議では、「障害のある児童生徒の理解と自立に向けての支援」というテーマで、学校・医療・福祉・行政の立場のパネリストから連携等について、意見交換が行われました。その後、兵庫教育大学大学院教授樋口一宗先生から「インクルーシブ教育システムの構築を目指して」というテーマで講演会が行われ、これからの「共生社会の実現」のための仕組みづくりや諸外国の様子などをうかがうことができました。



パネルディスカッション  
（燦々会議）の様子

## 実践的防災教育総合支援事業 長生村立一松小学校

11月28日（金）、一松小学校で「実践的防災教育総合支援事業」公開研究会が開催されました。一松小学校では、地震・津波を想定した取組を中心に、ワンポイント避難訓練、保育所との合同訓練、引き渡し訓練、屋上への避難後のライフジャケット着用訓練など、さまざまな防災活動や授業実践をとおして、児童一人一人の防災意識を高める工夫をしています。また、防災関係の先生を講師に招き、防災地域懇談会を開催したり、村合同の防災訓練に参加したりして、学校と地域が共に取り組んでいける防災体制づくりに力を入れています。

公開当日は、4学級が学級活動の授業を展開し、どの学級も命の大切さや具体的な避難の仕方について真剣に学ぶ姿が見られました。授業公開後は、災害伝承10年プロジェクト語り部の田村剛一先生に御講演いただき、東日本大震災の経験をもとに自主防災活動の必要性について考えることができました。



4学年の授業の様子